

まちひとしごと

Vol. 29

もんじ 文字 かずし 一志 倶知安町長

ここが「ふるさと」

と誇れる町へ



就

任から約1ヶ月。文字町長は古宇郡泊村に生まれ、1

歳の時に父親の仕事の都合で、家族で倶知安町に移り住み、それから高校卒業までをこの町で過ごした後、北見市の大学へ入学した。

「大学在学中には、北見と倶知安の距離を実感してみようと下宿から歩いて帰省したこともありました。途中親切なドライバーさんにも助けられながら、ふらふらになり実家に帰ったことは良い思い出です」

もともと本が好きで、大学の図書館や地元の本屋などに足しげく通い、本を読み漁ったのもこの時

期だという。そこから、岩手の大学で短期集中講座を受講し、図書館司書の資格を取得した。

大学卒業後は民間企業からの内定を受けていたものの、生まれ育った町であったことはもちろん、好きなことや、やりたいことを実現できる可能性のある職場として、倶知安町役場への入庁を決めた。

「4月に入庁し、そこでの仕事は自分の想像を上回る忙しさで、最初は戸惑いましたが、体が忙しさに慣れるにつれ、先輩や同僚に恵まれた職場環境の中、仕事の楽しさもわかってきました」

昨年に退職するまでの約30年間、最初の配属となった税務課から都市計画、建設課を経て開発推進室へ、そこからは主に観光・企画畑を歩んできた。

「役場職員としてのさまざまな人との出会いや経験が今の自分の考えを形成しています。先輩たちの教えをはじめ、何事にも熱意と誠意をもって向き合うこと、住民との信頼関係を築く大切さを、後輩である職員に伝えていきたいと考えています」

子どもの頃から見てきた倶知安町。時代の流れと共に移り変わる

町並みの中で、少子高齢化や人口減少など社会構造も変化している。

「変化を受け入れつつ、地域や人のつながり、地域全体で子どもを育てるという姿勢を昔と変わらずに大切にしていきたいです」

古くからこの町に住んできた人たちが築いてきたものを、私たちがしっかりと守り育て、次世代につなげていかなければならない。

「町の魅力や誇りは十人十色であり、暮らす人や訪れる人によっても違います。先人や私たちがこの町に住み続けてきた意味、その価値を考えていくことが必要ではないでしょうか」

町の過去・現在・未来を見据え、ここに暮らす価値をしっかりと見つけ直し守っていくことで、いつのときでも、ここが『ふるさと』と誇れる町へ。

「この町で暮らした時間の長さに関わらず、ふるさとと感じ、誇れるために、今を生きる私たち一人一人が、未来への責任を担っています。住みよい町、住みたくなる町を、共に築いていきましょう」

※まちひとしごとは不定期連載です